

MORGAUA QUARTET

パトスの扉が今、開く。

モルゴア・クアルテット

第55回定期演奏会

荒井英治

Eiji Arai

戸澤哲夫

Tetsuo Tozawa

小野富士

Onofuji

藤森亮一

Ryoichi Fujimori

2025年6月27日(金)

19:00開演(18:30開場)

浜離宮朝日ホール

指定席(限定34席) 4,500円

一般(自由席) 4,000円

学生(自由席) 2,000円

※指定席はミリオンコンサート協会のみ お取り扱い

モーツァルト 弦楽四重奏曲 第15番 ニ短調 K.421

シュニトケ 弦楽四重奏曲 第4番 (1989)

ヤナーチェク 弦楽四重奏曲 第1番『クロイツェル・ソナタ』

チケット販売 朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990 <https://www.asahi-hall.jp/hamarikyu/ticket/>

e+イープラス <https://eplus.jp> / ローソンチケット <https://l-tike.com/>

ミリオンチケット 03-3501-5638

ミリオンコンサート

検索

※ウェブサイトからのお申し込みはセブンイレブンでのお引き取り

コンサートマネジメント

ミリオンコンサート協会 03-3501-5638

皆さま。前回の『第二次モルゴーア計画宣言』そして、チラシのデザインには戸惑われたかとお察しいたします。そのさりげないシュールさに快哉を叫んだ方がいらっしゃいましたら、大変嬉しいことです。戸惑うこと、それは私たちが芸術に触れたときのリアクションとして体験すべきことだと考えます。言い方を変えれば、芸術の体験とは未知との出会いだ、ともいえます。

芸術とは理屈では説明できないものです。私たちの常識や日常を超越するもの、あるいは異化するものとして存在価値のあるものではないかと思うのです。しかしこの場合、未知なるものとは、私たちとは本来的に無縁だったものでしょうか？否、すでに私たちの中にあり、意識下に眠っているのではないか？それがある刹那、意識として顕在化するのでしょうか。

従って時間芸術である音楽は、あなたの日常的な時間を掠め取るようなものかもしれません。誠に油断ならないものです。でもそこが魅力であることは、きっと皆さまにはご理解いただけると思います。

さて、今回選ばれた3つの作品は時代が離れ、互いの関連性が無いように見えますが、果たしてそうでしょうか？曲を選定するにあたり、ヤナーチェクの『クロイツェル・ソナタ』がまず念頭にありました。そしてすぐさま、モーツァルトの二短調とシュニトケの第4番が矢継ぎ早に頭に浮かびました。脳裏を掠めたのは、『情念』『狂気』の2つの言葉です。それを括ったものとしての『パトス』。強い今回のテーマを挙げればこれではないかと思えます。

モルゴーアを聴きにいらしてくださる皆さまは私達には大切な存在です。計れない真の価値を共有できるからです。

これからも刺激的な音楽を積極的に紹介していきたい所存です

荒井英治

第1ヴァイオリン：荒井英治

(元東京フィルハーモニー交響楽団ソロコンサートマスター)

第2ヴァイオリン：戸澤哲夫

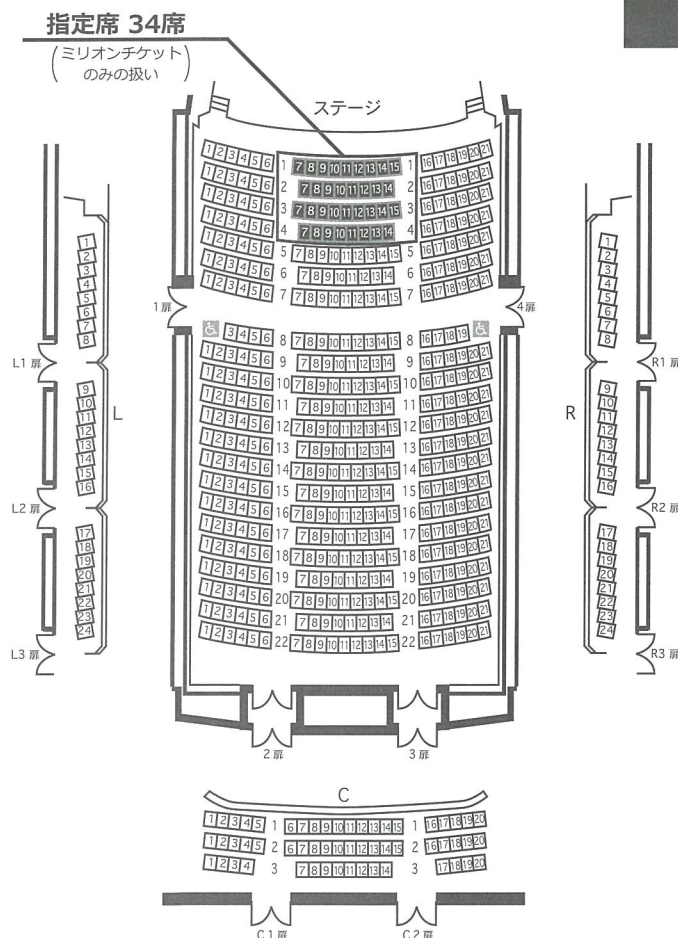
(東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団コンサートマスター)

ヴィオラ：小野富士

(元NHK交響楽団次席ヴィオラ奏者)

チェロ：藤森亮一

(NHK交響楽団首席チェロ奏者)



モルゴーア・クアルテット(Morgau Quartet)は、ショスタコーヴィチの残した15曲の弦楽四重奏曲を演奏するため1992年秋に結成された弦楽四重奏団。

2001年1月の第14回定期演奏会でショスタコーヴィチの残した弦楽四重奏曲全15曲を完奏。

ショスタコーヴィチ没後40年(2015)から生誕110年(2016)をつなぐ「ショスタコーヴィチ弦楽四重奏曲全15曲演奏会」を2015年大晦日から16年元旦にかけて「横浜みなとみらい小ホール」で開催。瞠目のプログラムで多くの聴衆を集めた。

2023年から24年にかけて「演奏活動30周年演奏会」をオール・ショスタコーヴィチ、オール・ロック、過去53回の定期演奏会プログラムから再演希望曲をアンケートし、そのリクエストに沿った演奏会を2回行い話題を呼んだ。

2012年から17年に日本コロムビアからリリースした、荒井英治編曲のプログレッシヴ・ロック・アルバム《21世紀の精神正常者たち》《原子心母の危機》《トリビュートロジー》により、ボーダーレスな弦楽四重奏団としても高い評価を受ける。

2017年9月「第47回JXTG音楽賞洋楽部門 本賞」、2018年6月「第28回みんゆう県民大賞 芸術文化賞」などを受賞する。